

下関市総合計画審議会
第2回「活力・創生部会」 議事概要

日 時	令和元年5月31日（金） 16：00～16：50
場 所	下関市役所本庁舎新館 5階 大会議室 B
出席者	下関市総合計画審議会委員 7名（欠席者5名） 下関市総合計画策定委員会 事務局（下関市総合政策部企画課）

【次第】

- 1 第1回専門部会におけるオブザーバーからの意見等について
- 2 第1回専門部会における意見等への対応について
- 3 第2次下関市総合計画後期基本計画（素案）の追加修正について

1 第1回専門部会におけるオブザーバーからの意見等について

部会長

本部会が担当する内容に対し、他の専門部会に所属しているオブザーバーから意見をいただいている。これらの意見については、本部会の意見として取り扱うか否かの判断は部会長が行うことになっている。事前に事務局に対し、オブザーバーからの意見を確認した結果、本部会の意見として取り扱うこととした。

事務局におかれては、これらの意見に対する市の見解や意見を踏まえた素案の内容修正について、次回の専門部会で示して欲しい。今回は、第1回専門部会における、各委員からのご意見に対する市の見解や素案の修正内容等、後期基本計画素案の追加修正について、事務局より概要の説明をお願いしたい。

2 第1回専門部会における意見等への対応について

3 第2次下関市総合計画後期基本計画（素案）の追加修正について

事務局

（別紙1・別紙2を抜粋説明）

部会長

概要の説明をいただいた。何かご意見があればお願いしたい。

委員

新しい話になるが、パンフレットを見ると地区ごとにゾーニングをしている。ゾーニングと後期基本計画との関係がよく判らない。ゾーニングそのものはイメージだと理解して

いるが、ゾーニングにふさわしくないような事業や施設などは、その地区で行わないという縛りがあるのであればフレキシブルさに欠けると思う。ゾーニングに拘らず、その時々
の状況に応じて適切な事業をしていくということでは間違いはないか。

事務局

ゾーニングが何かを止めるという形で現時点では考えていない。イメージで捉えるという形で見ただけであればよいと思っている。

委員

農薬使用（別紙1のNo.13）について、日本の農薬使用量は世界第4位と発言したが、第3位だった。ラウンドアップ、ネオニコチノイドを使ったものはEU諸国等では使用禁止となっているが日本では使用している。これらの農薬が子ども達の健康に非常に大きな影響を与えるといわれている中で、健康よりもお金がかかったり研究が難しいということで見逃しておいていいのか、今でも疑問に思っている。

鯨食の学校給食の取り入れ（別紙1のNo.16）について、かなりお金がかかっており、他の給食業務や栄養関係の業務が悪化するのではないか。鯨食自体についてだけではなく心配している。

都市型サービスのためのオフィスビル（別紙1のNo.20）だが、情報サービスやインターネット付随サービス、コールセンターというものこそ、都市でなくても出来る、田舎で人を集めることが出来る。大きな企業は、田舎でこのようなことが出来るようにという動きをしているはずなのに、市の全ての計画がそうだが、中心市街地のことだけを考えている感がある。他のところで話をしたときに、「どうせ市の人たちはこちらを見ていない」という話を聞いた。こういうものの導入こそ田舎で出来ることではないか。最近の報道で中心地への移住に100万円貰えると書いていたが、何故中心地なのかがとてもおかしいと思う。

就業支援（別紙1のNo.23）でjobフェアのことだが、豊浦町内のある企業の方に聞いたら、わざわざ1～2名の求人のために下関まで出てブースを出すために会社を休むようなことは出来ないから参加していないと言われた。市の端である唐戸が会場なので、旧市内ならまだしも豊浦町や豊浦郡の人は、バスに乗ってわざわざ出て行かなければならない。さらに参加者に「自分の居住地には何もないが、下関の市街地に出ればある」というメッセージを与えているのではないか。また、jobフェアでは農業や漁業も同じ枠で見られるのか？

景観形成地域（別紙1のNo.35）で、表彰があるようだが、表彰を受けるメリットは何があるのか。田舎であれば忙しい中で畑仕事の合間を縫って環境整備を行うのだが、それについて賞状1枚と数万円の賞金があるだけでは、わざわざ手を挙げて申し出ることはないと思う。

港湾施設（別紙1のNo.53）について、対応・理由等を見る限り今まで検討をしたことがないと思える。他の部会の方を見ると、いろいろ意見が出ておりそれに答えていた。議会

ではないが事前に議事通告をしているので、下関市が今まで港湾の整備でいくら使い、将来的にいくら使うのか。例えば長州出島が何百億円、何兆円の効果を下関市にもたすのかを検証しているからそのような事業をやっていると思うので、答えていただきたい。もし、検証もせずに事業を進めているのであれば、どの段階で諦めるのか、お金を投資することを断念するのか、その責任は誰が取るのかも聞きたいと思う。

事務局

基本的にはこの場ではなく、持ち帰って次回にお答えさせていただきたいと思う。正確にお答えする意味でも次回にお答えさせていただきたい。

部会長

即答は難しい部分があるので、次回のお答えいただきたい。港湾の振興で費用対効果という話だが、いろんところで費用対効果という文言は出る。ムダは省かなければならないので、事務局で考慮して適切な文言になるようお願いしたい。

委員

先程の意見と見解が異なるが、社会資本整備は費用対効果が厳しい。何故、社会資本整備かという、民間では投資できない、利益が上がらないから社会資本投資という形で税金を使うし、長期的なビジョンでかつ巨大な金額になる。しかし、全てやったらその通りになるかという話は難しい。ただ、新規で予算を付けるときの手法としてB/C（費用対効果）がある。投資した金額に対し便益が1以上あれば事業として認めることができるというものであり、過去そのような手法で公共事業を付けてきた。費用が便益を下回る場合は、新規事業として認めないとしている。ただ、絶対に10年先も20年先もそうなのかといえば、経済の状況や地域の状況で不確定要素がある。例えば、港湾整備でコンテナバースを作る際に水深12mで作るとする。水深12mを必要とする船が来るかどうか解らないが、水深12mのバースがなければそもそもその船は来ることが出来ない。そういったところが、社会資本整備を行う際のリスクがあるという一つの典型である。

委員

前回、駅周辺の関係で申し上げたが、その中（資料1のNo.42）で「中心市街地活性化基本計画（下関版）」の推進をしていくとなっているが、手元にないので中身がどうなっているのかわからない。コンパクトシティのイメージで言うと、駅周辺の商業地区には大丸、シーモール、リビエといった商業施設や、グリーンモール商店街がある。住宅地区では竹崎の改良住宅の建て替え等の問題も出てくる。これらを集約してどう活用するのか。これから5年かけてコンパクトシティ化や市街地の環境整備を行うことになるが、それも含めた部分がこの基本計画の中に既に入っているのか、そのあたりの絡みがどうなっているの

か。駅周辺について大きなランドデザインがないと、個々にやっていたらそこで終わってしまい連帯性が取れない。そういう感じを持っている。

委員

林業に関してだが、以前から集めていた資料がある。自伐式林業の話を前回したが、杉や檜だけではなく、梅檀やユーカリ、柳のような早生樹を植えるという試みとか、岩手県では木材で地域の冷暖房をやっているとか、楠を使って樟脳を生で作るとか、木材での小規模発電などもあったので、可能であれば見ていただきたい。

先ほど、良い示唆を与えてくださった。港湾計画でいうとまず施設がなければ何も出来ないと言われたが、豊浦町には道の駅が無く、道の駅を作ろうとすると「ダメだ」と言われてしまう。道の駅が重要であると市の計画にも書いてあるにもかかわらず、道の駅が無いので豊浦町は出来ないということになる。何かものを作って費用対効果が合うかわからないということであっても進めて良いのであれば、豊浦町の道の駅も是非認めていただきたい。

部会長

私の経験からすれば費用対効果といっても、世界の貿易競争とか観光客の来客数を増やすためには、社会情勢が大きく変更しうる可能性があるので、ある程度費用対効果を度外視してでもすべきことがある。単に費用対効果で費用を惜しむことで世界の競争に負けたら、日本も潰れるし下関も潰れる。ある程度、世界の社会情勢を勘案し、ある程度の費用対効果について調査をしながら投資することも必要だと思っている。過剰投資をしたことにより内部機関からお叱りを受けたことが、結果的に早く投資を行うことで時代の流れに乗って経済効果が出て雇用効果も出たということもあり得る。後期基本計画の中には、世界の流れとか国内の流れを見つつ、自分の所だけ遅れを取るよりもある程度投資をして世界の経済に対応できるように先を読んで行うことも重要な事業であると思っている。

委員

第5章 14 ページの港湾振興だが、その昔、下関が栄えたのは北前船などの影響が大きかった。その後、戦後の食料獲得でたくさん外からお金を採ってきた。下関が何故衰退したかという、外からお金を持つてくる力が弱くなったからだと思う。だから市の職員や公務員関係でお国からの税金からの収入くらいしかなく、民間の税収が少ない。港湾振興の話で長州出島のことをもっと書いてもらって、長州出島を中心にしたような感じで下関の将来像を考えられたら如何か。

部会長

大型クルーズ船が着くようになり、インバウンド効果が下関の経済効果に繋がると思う。

これも先程の事業投資ということもある。そういったことも事務局の方は、文言も追加して将来的に港湾によって栄えるようなものになればと思っている。

委員

前回、林業の担い手対策について言い忘れていたことがあった。農業や水産業は担い手対策が入っていたが、林業については入っていなかった。今回の資料の中に入っていたので特に意見はない。

部会長

一般的には林業は過去のもので、林に携わって生活が出来る可能性が無いと言われていたが、そうではなく新しい取り組みをすることで、今まで見捨てられていたような林で事業が出来ればと思っている。四国では和紙を作る原料となる三桧や楮が不足している。今、西部地区には鹿が多いが、これらの木は鹿が食べないということで、里山で荒れた土地に三桧や楮を植えて、四国の生産工場に売ることによって収益を得られるのではないかと考えている。林業といえば椎茸関係だと思いが、自伐型林業である程度将来を見据え、林業で里山を回復しながら新たな事業展開が出来るのではないかと考えている。

豊田、豊北には大容量の光ケーブルが通っていないのではないかと。

市街で漫画家が空き家を活用する事例もある。私は空き家対策で全国に先駆けて30年以上前に東京で発表して新聞にも掲載されたことがあるが、我々の所は空き家対策で芸術家を誘致し、空き家に対する補修支援をして多くの方が田舎であっても空き家を活用して起業しているといったことを行った。下関の空き家は古くて近所迷惑になるので崩さざるを得ないが、大きな木造家屋を再生してカフェなどに活用するなど、重点的に取り上げれば地域の活性化にもなるし、地域に企業が生まれる可能性がある。外国の方々も、日本の空き家を改修し住む傾向があるので、そういった点も追加していただければ地域の活性化に繋がるのではないかと考えている。

萩市の前市長である野村氏と話す機会があったが、地域おこし協力隊が下関は3人位だが萩市は20人以上来ている。これを積極的に入れると、地域が活性化する。私が以前やっていたときは、緑の協力隊が1名来たが、その人が来たことによって大きく変わった。その人が来たことによって、昔の芸能文化の復活や、その地域の集落の文化伝統を引き継ぐことが出来るようになり、更に協力隊の方が赴任先で永住することになった。全国の4割位は田舎で定着して地域の中心的な役割を担っている。全国でそういう事例がたくさんある。そういった地域おこし協力隊などの事業を積極的に導入して、地域の再生を目指していく文言が書いてあればと思う。

委員

基本計画に沿って具体的な実施計画に入ると思う。全体予算からすれば農林水産に関する

る予算は少ないと思うが、私のお願いとしては、効率よく農林業に対する施策について、是非組んでいただきたい。

部会長

最近では下関市議会も農林関係の一般質問がほとんど無いという状態なので、農林関係が多い旧4町は捨てられたのかという印象を受けるが、自伐型林業あるいは地域おこし協力隊を入れて田舎の再生を目指すなど、何か新しい農林業分野で振興が見込めるような事業ができないものかと考えている。昔の豊田町西市は社会的経済的な要因もあり、人口比率で飲食店全国第2位の活況を浴びたこともあった。中心市街地は旧4町ともゴーストタウンになりつつあるが、旋風を巻き起こせるような空き店舗を利用した事業が出来ないかと思っている。

世界でもインスタ映えで新しい観光地になることもある。豊田町では一ノ俣の砂防ダムで、何の変哲もないと思っていたところが桜で有名になることで観光地に様変わりし、角島大橋や元乃隅神社と併せて回る人も増えている。外国の方の写真で見たとか、日本の方が行ってみるなど、情報を流すことで来訪者を増やし、インバウンドが盛んになり経済効果が出て地域活性化に繋がるなど、そのあたりの文言を強調していただければと思っている。

事務局

先程の部会長がおっしゃった観光客に関する記述は第1章になる。いただいたご意見は部会にも届くし文言も入っている状態であると思う。

部会長

書いていけば修正等は必要ないが、意見として述べさせていただいた。

委員

下関北九州道路（別紙1のNo.44）について、アンケートの結果をみると要望が多いとは言えないと発言したが、対応の中で平成26年度に企業アンケートを実施し、その中で約7割が、整備が必要との回答をいただいたとある。市民アンケートは平成25年に行って企業アンケートは平成26年度なので、同じようなものであれば最近に行った企業アンケートも載せないのはいかがでしょうかと思う。市民アンケートと企業アンケートの使い方が異なっているように思う。

竹林の話を前回行ったと思うが、北九州市では伐採した竹を粉碎する機械を貸し出し、粉碎した竹を畑に蒔いて再生するというのがあった。林業に関してはいろいろな方法で、それほど金額が高なくても畑の役に立つし、筍も採れるので産直にも繋がる。農業に対してもしっかりお金を使っていたいただければと思う。

部会長

他に意見は無いか。今回は意見が出尽くしたようなので、次回の専門部会の会合について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局

次回の専門部会は今回と同様、ご意見に対する市の見解、ご意見を踏まえた素案の修正内容をお示しする。そして再びご意見を賜りたいと考えている。また、次回は後期基本計画の設定する章・節毎の目標指標についてもお示しをして、ご意見を賜りたいと思っている。

部会長

皆様方からの第 1 回目の意見を修正して、今回示していただいた。私から見ると、適切に処理をされたと思うが、皆様方からすれば少し足りない部分もあったかと思うので、それは次回に報告をしていただければと思う。

それでは第 2 回の専門部会を終了したい。進行を事務局に返す。

事務局

次回の専門部会は既にご案内のとおり 7 月 3 日の 10 時からの開催とさせていただきたい。

以上